

早期臨床実習を終えて

早期臨床実習を終えて

歯学科2年 井上綾子

一年生の早期臨床実習Ⅰに引き続き、二年生では前期に早期臨床実習Ⅱが行われました。一年生の頃の臨床実習とははつきりと違う点が二つあります。一つ目は新しくなった病院で実習が行えたことです。新しく、きれいな病院での実習は気持ちさらに引き締まりました。白衣を着ての実習なのですが、病院に出れば学生であろうと患者様から見れば私たちは一医療人として見られます。身だしなみや立ち居振る舞いには普段以上に気を付けなければなりません。そういう点でも気持ちの引き締まる実習であったといえます。二つ目は一つ一つの診療科について時間をかけじっくりと見学するという点です。一年生では一日に複数の診療科の見学でしたが、二年生では一日一診療科の見学でした。

二年生では歯科に関する基礎分野の勉強が始まりました。そんな中で歯科医療の現場を見学するというのは、自分が歯科医となった時にどのような仕事（治療）をしているのか、また、そのために今勉強している基礎分野はどのように役立つのかを理解する貴重な機会でした。基礎と臨床のつながりを知ることは基礎科目の勉強のモチベーションの向上にもつながりました。

見学において印象に残った診療科について紹介します。義歯診療室の見学では実際に自分で人工歯を削り、支台歯形成を体験しました。歯の診療室の見学では人工歯の齶蝕部分を削り修復物を詰めました。私はこの時初めて歯科の治療器具に触れました。やはり自分が思っているようにはうまく削れず、治療には正確で繊細な技術が要求されることを痛感しました。矯正歯科診療室では矯正に使う針金を複雑な形に曲げたりしました。私も今、矯正治療を行っている最中なのでこの実習に

はとても興味をもつことができました。また、「齶蝕の治療は歯を齶蝕する前の状態に戻す治療であるのに対し、矯正治療は今ある状態を変えていく治療であるので、一般的な歯科の治療とは異なる。」という教授の説明がとても印象的でした。

今回の臨床実習ではこのような歯科の技術を見学しただけでなく、歯科医師の患者様への対応の仕方も間近で見ることができました。小児歯科では、いかに子供に安心を与え、リラックスさせて治療をできるかが重要でした。そのために治療中、絶えず先生方は子供に声をかけていました。また、他の科で治療を見学していた時に患者様に手を握っていてほしいと頼まれたこともありました。成人の患者様にとっても治療は怖いものなのだと感じました。手を握ることで患者様が少しでも安心して治療に耐えられる場合もあるので、そういう意味での心の寄り添いも大切なのだと感じました。歯科医師の何気ない一言で患者様は安心して治療を受けられます。この実習で学んだこのようなことも歯科医師となった時に生かせるように忘れずに覚えておきたいと思います。この後、私たちは五年生まで病院での実習はありませんが、この実習を思い出しながら今勉強していることがどのように歯科医師につながるのかを考え、基礎知識の習得に励みたいと思います。

早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 浅利早紀

無事2年生へと進級し、いよいよ歯科・福祉の専門的な講義や実習が始まりだし、新しい環境への戸惑いと期待を持ちながら毎日を過ごしていた春。そのような生活の中で特に印象深かったのは、早期臨床実習の施設見学であったと思います。この実習では実際に医療や保健、福祉の現場へ訪れ、どのような活動をしているか、そこで歯科衛生

士・社会福祉士はどのような役割を果たしているかなどを学ぶというものでした。実習では、新潟市児童相談所・市保健所・ばんだい桜園・市医療センターを見学させていただきました。専門家としていずれ自分が働くことになるかもしれないという気持ちで実際に見学をすると今まで考えたこともなかったような疑問や関心が生まれました。このようにこれから学んでいく歯科・福祉に対する関心が高まったので、そこで働いている方々のお話を直接聞く機会というのは非常に貴重な体験であったと思います。

今まで、児童相談所は児童虐待の相談をする所というイメージが強いものでしたが、実際には児童に関する他の相談や虐待予防の子育て支援などの活動もしており、施設の存在は知っていてもどんなことをしているのかまでは知りませんでした。また、10人ずつで1つのグループとして生活するユニット型と呼ばれるスタイルの老人ホームであるばんだい桜園では、私が今まで見たことのある老人ホームとは異なった印象を受けました。ユニット型は大集団で生活をする従来型に比べて、管理がしやすく、個別のケアが可能となっており、高齢化に伴い、老人ホームも改良されていることに驚きました。このように現場での活動から施設の仕掛け、社会背景など、教科書を見るだけでは分からないようなことを聞き、児童虐待や

高齢化などのよくニュースで耳にするような問題が実際に現実で起きていることであることを改めて実感することもできました。これから福祉を学んでいく者としてそういった社会問題に直面していくので、今回の実習を通して身近な問題として感じる事ができて良かったです。

市保健所と市医療センターでは歯科衛生士の活躍の幅の広さを感じました。保健所では3歳児健診の様子を見学させていただきましたが、単に口腔内の状態を見るだけでなく、一人一人の生活に合わせた口腔衛生指導や他のスタッフと情報交換などをしており、観察力や指導力など様々な能力が必要であることを感じました。また、市医療センターでは病院における歯科衛生士の活動について学び、訪問診療、栄養サポートチームへの参加、摂食・嚥下チームへの参加など自分が考えていたより多くの場面で活動しており、さらに口腔の健康が全身の健康に影響することが改めて感じられて、広い視野と知識が必要であることが分かりました。

今回の実習を通して歯科衛生士・社会福祉士の活動とそれに必要な能力を知り、自分が目指すべき姿を具体的に考えることができました。そのことを日々意識してこれからの実習や学習に取り組んでいきたいと思います。

